

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第4号を下記のとおり発表したので送付します。

平成20年度病害虫発生予報第4号

平成20年7月3日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち	やや遅	並
	穂いもち	並	並
	紋枯病	並	並
	ヒメトビウンカ	—	やや多
	縞葉枯病	—	やや多
	ツマグロヨコバイ	—	やや少
	萎縮病	—	少
	ニカメイガ	—	少
	セジロウンカ	—	少
	トビイロウンカ	—	少
斑点米カメムシ類	—	並	
モ モ	せん孔細菌病	—	やや少
	灰星病	—	やや少
	モモハモグリガ	遅	少
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	晩腐病	並	やや少
	べと病	—	並
	うどんこ病	—	並
	フタテンヒメヨコバイ	—	少
	チャノコカクモンハマキ	—	やや少
果樹共通	カメムシ類	—	やや少
キュウリ	べと病	—	やや少
	うどんこ病	—	やや少
	褐斑病	—	並
	炭疽病	—	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	やや多
トマト	疫病	並	やや少
	葉かび病	—	やや多
ダイコン	軟腐病	—	並
	キスジノミハムシ	—	やや多
	コナガ	—	少
野菜共通	ハスモンヨトウ	—	やや少
	アブラムシ類	—	やや少
	モザイク病	—	並
キ ク	白さび病	—	並
	ハダニ類	—	やや少
	アブラムシ類	—	やや少

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月23～24日の巡回調査において、本田での葉いもちの発生は認められなかった（同時期における発生圃場率の平年値2.6%）。葉いもちの初発生時期は平年よりもやや遅い（平年：6月第5半旬）。

イ. 罹病性品種（コシヒカリ、あきたこまち、ヒノヒカリ、吉備の華、朝日）が広く作付けされている。

ウ. ブラストムによる葉いもちの感染好適条件が、6月19日および20日に北部地帯を中心に出現し、21日、22日および29日には北部・中部地帯に広域的に出現した。これらの地域でいもち病対象薬剤の箱処理を実施していない圃場や残効が切れている圃場では、7月1～2半旬に広域的に初発生する可能性がある。ブラスタムの最新結果は下表のとおりである。

エ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病を抑制する条件となる。しかし、梅雨時期であり、曇天が続き降雨日数が多い場合には発病が助長されるので注意する。

防除上の参考事項

ア. 補植用の苗は、伝染源となるので処分する。

イ. 発生圃場では直ちに登録薬剤を施用する。薬剤は箱処理剤と同系統のものを避ける。未発生圃場でも、罹病性品種では病勢の進展が速いので、早期発見に努める。

ウ. 今後の気象変動によっては、発生が増加する可能性があるため、今後の予察情報に注意する。

表 アメダスデータから推測される葉いもちの感染好適条件の出現状況

(BLASTAM メッシュー岡山版)

月・日	上長田 N	千屋 N	奈義 N	古町 N	新見 N	久世 M	津山 M	福渡 M	和気 M	高梁 M	岡山 S	虫明 S	倉敷 S	笠岡 S	玉野 S	
6. 15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16	—	—	—	—	—	—	—	—	●	△	—	●	●	●	—	—
17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19	—	●	●	●	●	●	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	●	●	●	●	●	●	—	—	●	—	—	—	●	●	●	—
21	●	●	●	—	●	●	●	●	●	●	●	—	●	●	●	—
22	●	●	●	—	●	●	●	●	●	●	●	—	●	●	●	—
23	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—
24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
29	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	—	●	●	●	—	—
30	—	●	—	●	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	—

地点の地帯区分：N; 北部地帯、M; 中部地帯、S; 南部地帯

●：感染好適条件 △：準感染好適条件 —：いもち病発生の好適条件は現れなかった

(2) 穂いもち（極早生種対象）

予報内容

発生時期 並
発生量 並

予報の根拠

- ア. 早生品種を中心にイネの生育ステージはほぼ平年並で推移している。
- イ. 6月23～24日の巡回調査では、極早生種栽培地帯（主に県北部、中部）における葉いもちの発生はまだ認めていない。
- ウ. ブラスタムによる葉いもちの感染好適条件の出現（前述）により7月1～2半旬に広域的に初発生する可能性がある。
- エ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発病を抑制する条件となる。しかし、梅雨時期であり、曇天が続き降雨日数が多い場合には発病が助長されるので注意する。

(3) 紋枯病

予報内容

発生時期 並
発生量 並

予報の根拠

- ア. 6月23～24日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。
- イ. イネの茎数は早生種を中心に概ね平年並である。
- ウ. 前年の発生は平年より少なかったため、越冬菌密度も平年より少ないと考えられる。
- エ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。気温が高い場合には発病を助長する条件となる。

(4) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

ヒメトビウンカ（第2世代幼虫）

発生量 やや多

縞葉枯病

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 6月23～24日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）では、成幼虫の発生量は1.57頭で平年（1.43頭）並であった。
- イ. 6月下旬の県予察圃場におけるすくい取り調査では、ヒメトビウンカの発生量は21.5頭で平年（5.6頭）より多かった。
- ウ. 赤磐市の予察灯における6月の飛来数は17頭で、平年（6.5頭）より多かった。

(5) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

ツマグロヨコバイ（第2世代幼虫）

発生量 やや少

萎縮病

発生量 少

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における6月の飛来数は16頭で、平年（30.0頭）より少なかった。
- イ. 6月下旬の県予察圃場におけるすくい取り調査では、ツマグロヨコバイの発生量は41.0頭で平年（43.6頭）並であった。
- ウ. 6月23～24日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）では、成幼虫の

発生量は0.20頭で平年（0.39頭）よりも少なかった。萎縮病は平年同様発生を認めていない。

(6) ニカメイガ（第1世代幼虫）

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 6月の県予察圃場のフェロモントラップにおける誘殺数は0頭で、平年（8.4頭）より少なかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯への初飛来日は6月21日で平年（6月17日）よりやや遅く、6月の飛来数は1頭で平年（6.1頭）より少なかった。

イ. 6月下旬の県予察圃場におけるすくいとり調査（20回振り）では、成幼虫の発生量は0頭で平年（1.1頭）より少なかった。

ウ. 6月23～24日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）では、成幼虫の発生量は0.13頭で平年（2.26頭）より少なかった。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市及び津山市の予察灯への6月の飛来はみられず、平年（それぞれ、0.1頭及び1.2頭）より少なかった。

(9) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 予察灯におけるアカスジカスミカメの6月の誘殺数は、津山市では137頭で平年（184.5頭）よりやや少なく、赤磐市では88頭で平年（89.1頭）並であった。

イ. 巡回調査における雑草地のすくい取り調査（20回振り）では、アカスジカスミカメは1地点当たり6月9～10日に3.6頭で平年（7.1頭）より少なく、6月23～24日に21頭で平年（23.5頭）並であった。

ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、これらは発生を助長する条件である。

2 果 樹

(モ モ)

(1) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月20日の巡回調査では、一般圃場での発生圃場率は13.5%で、平年（28.7%）より少ない発生であった。

イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。しかし、風雨によって発病が助長されるので、今後の気象に注意する。

(2) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 6月20日の巡回調査では、一般圃場において果実での発生は認めていない。
- イ. 県予察圃場における幼果の発病果率は4.8%で、平年(7.8%)より低かった。
- ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。降水量が少ない場合には発病を抑制する条件となる。

(3) モモハモグリガ(第3世代幼虫)

予報内容

発生時期 遅
発生量 少

予報の根拠

- ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける第2世代成虫の初飛来日は6月17日であり、発生時期は平年(6月9日)より遅かった。
- イ. 6月の誘殺数は11頭で平年(131.9頭)より少なかった。
- ウ. 6月20、23～24日の巡回調査における発生圃場率は0%で、平年(2.5%)より低かった。

(4) ナシヒメシンクイ(第3世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける6月の誘殺数は24頭で平年(27.1頭)並であった。
- イ. 6月20、23～24日の巡回調査における新梢被害の発生圃場率は10.8%であり、平年(21.5%)より低かった。

(5) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 6月20、23～24日の巡回調査における発生圃場率は32.4%で、平年(10.0%)より高かった。
- イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、これらは発生を助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 晩腐病

予報内容

発生時期 並
発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 6月の降水量は全般的に平年よりやや少なかったことから、幼果の感染も平年よりやや少ないと思われる。
- イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。本病は降水量が少ない場合には発病を抑制する条件となる。

(2) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 県予察圃場(ネオ・マスカット)における初発生は6月11日で平年(6月6日)よりもやや遅かった。
- イ. 6月20日の巡回調査では、一般圃場のトンネル被覆栽培における発生圃場率は

21.4%で、平年(19.7%)並の発生であった。

ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。降水量が少ない場合には発病を抑制する条件となる。しかしながら梅雨時期の連続降雨により急に病斑が進展する可能性もあるので注意する。

(3) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月20日の巡回調査では、一般圃場のトンネル被覆栽培において初発生を確認したが、発生は軽微であった。

イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。降水量が少ない場合には発病を助長する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 6月20、23～24日の巡回調査における被害発生圃場率は0%で、平年(5.0%)より低かった。

(5) チャノコカクモンハマキ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. フェロモントラップにおける6月の誘殺数は、赤磐市で17頭と平年(15.5頭)並であり、津山市では53頭と平年(113.6頭)より少なかった。

(果樹共通)

(1) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 予察灯におけるチャバネアオカメムシの6月の誘殺数は、赤磐市で19頭と平年(97.8頭)より少なく、津山市でも10頭と平年(48.4頭)より少なかった。

イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高い見込みであり、飛来を助長する条件である。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月9日播種)では、初発生が6月9日で平年(6月15日)より早く、発生量は平年並であった。

イ. 6月26～27日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年並であった。

ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 県予察圃場（5月9日播種）では、初発生が6月25日で平年（6月23日）並であり、発生量も平年並であった。
- イ. 6月26～27日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年並であった。
- ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、これらは発病を抑制する条件である。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 県予察圃場（5月9日播種）では、初発生が6月17日で平年（7月14日）より早く、発生量は平年より多かった。
- イ. 6月26～27日の巡回調査によると、一般圃場での発生は平年並であった。
- ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。本病は高温で発病が助長され、少雨では抑制される。

(4) 炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 県予察圃場では発生を認めていない。
- イ. 6月26～27日の巡回調査によると、一般圃場での発生は平年並であった。
- ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。本病は高温で発病が助長され、少雨では抑制される。

(キュウリ、ナス)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 6月26～27日の巡回調査によると、露地および施設栽培のナス、キュウリでの発生量は平年並であった。
- イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、これらは発生を助長する条件である。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並
発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 県予察圃場（5月9日定植）では発生を認めていない。
- イ. 6月26～27日の巡回調査では、一般圃場での発生は平年同様認めなかった。
- ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は少ないとされており、これらは発生を抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 県予察圃場（5月9日定植）では発生を認めていない。
- イ. 6月26～27日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年より多かった。
- ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より

少ないとされている。本病は高温で発病が助長され、少雨では抑制される。

(アブラナ科野菜)

(1) ダイコン軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月26～27日の巡回調査では、一般圃場での発生は平年同様認めなかった。

イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされている。本病は高温で発病が助長され、少雨では抑制される。

(2) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 6月26～27日の巡回調査によると、北部地帯のダイコンにおける発生は平年並であった。

イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、これらは発生を助長する条件である。

(3) コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 6月における県予察圃場のフェロモントラップへの誘殺数は、赤磐市では1頭で平年(98.1頭)より少なく、津山市でも0頭で平年(26.9頭)より少なかった。

(野菜共通)

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月のフェロモントラップへの誘殺数は、赤磐市では21頭で平年(156.2頭)より少なく、津山市でも8頭で平年(63.9頭)より少なかった。

イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、これらは発生を助長する条件である。

(2) アブラムシ類とアブラムシ伝搬のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少

モザイク病 並

予報の根拠

ア. 6月の黄色水盤への飛来数は、赤磐市では159頭で平年(304.8頭)より少なく、津山市では598頭で平年(1341.6頭)より少なかった。また、赤磐市の県予察圃場における6月下旬のキュウリでの発生量は平年より少なく、トマトではやや多かった。

イ. 6月26～27日の巡回調査によると、一般圃場でのアブラムシ類の発生量は平年より少なかった。

ウ. 一般圃場におけるキュウリ、トマト等でのモザイク病の発生量は平年よりやや多かった。

エ. 6月27日の季節予報によると、7月の降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月26～27日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年よりやや多かった。

イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年よりやや少ないとされており、これらは発生を抑制する条件である。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月26～27日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年より少なかった。

イ. 6月27日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(3) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月の黄色水盤への飛来数は、赤磐市では159頭で平年(304.8頭)より少なく、津山市では598頭で平年(1341.6頭)より少なかった。

イ. 6月26～27日の巡回調査によると、一般圃場での発生量は平年よりやや少なかった。

ウ. 6月27日の季節予報によると、7月の降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

病虫害発生予察情報テレホンサービス

岡山県病虫害防除所では、主要病虫害の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224

携帯電話用アドレスの公開

予報、注意報、警報については携帯電話用の情報（簡易版）を公開しています。

アドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/norin/nousou/kei/top.htm>



QRコード